

## 日本原子力学会 炉物理部会 第 62 回全体会議 議事次第

日時：2025 年 3 月 13 日（木）12:05～12:55

場所：Zoom C 会場

令和 6, 7 年度 審議・報告事項

### 【審議事項】

- |                            |        |            |
|----------------------------|--------|------------|
| 1. 令和 6 年度決算、令和 7 年度予算について | (財務)   | (資料 62-01) |
| 2. 令和 7 年度運営小委員会について       | (部会長)  | (資料 62-02) |
| 3. 2025 年秋の年会企画セッションについて   | (学術交流) | (資料 62-03) |

### 【報告事項】

- |                                |        |            |
|--------------------------------|--------|------------|
| 4. 炉物理部会 ML の利用促進ルールの制定について    | (部会長)  | (資料 62-04) |
| 5. 炉物理部会部会賞(学生・若手優秀講演賞)の新設について | (部会長)  | (資料 62-05) |
| 6. 第 56 回炉物理夏期セミナー開催計画         | (セミナー) | (資料 62-06) |
| 7. 炉物理部会報の発行状況について             | (編集)   | (資料 62-07) |

以上

## 令和6年度 炉物理部会予算及び実績

科目	R6年度 予算案	R6年度 実績	備考
----	-------------	------------	----

## [1] 通常予算

(単位 円)

収    入	前年度予算繰越金 [A]	6,014,406	6,014,406	2025/1実績より
	本部配布金	218,000	218,000	
	掲載料	0	0	
	テキスト売上	0	0	
	セミナー残金	0	0	今年度セミナーは収入・支出ともにゼロで運営
	その他	0	0	
当期収入合計	218,000	218,000	(余剰金算出用:通常収入+セミナー収入=218,000[B])	

支    出	会議費	0	0	
	旅費交通費	160,000	120,000	・国際会議旅費補助4万円×4名の予算に対し3名に支払い手続き済み。
	通信運搬費	4,000	1,080	・炉物理部会賞副賞の輸送料1件を計上。
	消耗品費	4,000	0	
	一般外注経費	30,000	28,553	・炉物理部会賞副賞(組織1件、個人3件)の予算に対し、奨励賞3件の受賞(副賞として表彰楯)。
	諸謝金	0	0	
	負担金	0	0	
	助成金	0	0	
	通常予算補助金	0	0	
	管理費配賦額	0	0	
	その他	20,000	0	・国際会議参加費補助1万円×2名の予算に対して支出無し。
	当期支出合計	218,000	149,633	(余剰金算出用:通常支出+セミナー支出=149,633 [C])

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	0	68,367	
本部納付金 [F]	0	68,367	学会規程(0303)第8条①に従い、全活動の支出合計[C]が本部配布金を下回ることから、差額を本部を返納する。

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]-[F]	6,014,406	6,014,406	
---------------------------	-----------	-----------	--

## 令和7年度 炉物理部会予算案

科 目	R7年度 予算案	備 考
-----	-------------	-----

## [1] 通常予算

(単位 円)

収 入	前年度予算繰越金 [A]	6,014,406	
	本部配布金	226,000	令和6年11月事務局通達に基づく(変更の可能性あり)
	掲載料	0	
	テキスト売上	0	
	セミナー残金	0	セミナー収支は±0として計算
	その他	0	
	当期収入合計 [B]	226,000	

支 出	会議費	0	
	旅費交通費	180,000	学生の国際会議旅費補助 4.5万円×4名
	通信運搬費	4,000	書類送料
	消耗品費	4,000	印刷代、コピー代、運営会議開催時の事務用品代
	一般外注経費	30,000	炉物理部会賞副賞(組織1件、個人3件)
	諸謝金	0	
	負担金	0	
	助成金	0	
	通常予算補助金	0	
	管理費配賦額	0	
	その他	0	
	当期支出合計 [C]	218,000	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	8,000
本部納付金 [F]	8,000

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]-[F]	6,014,406
------------------------	-----------

## 2025年度（令和7年度）炉物理部会運営小委員会委員（案）

氏名	役職	所属
牛尾 直史	部会長（任期1年）	原子燃料工業
須山 賢也	副部会長（任期1年）	原子力機構
和田 怜志	庶務幹事（任期1年）	東芝エネルギーシステムズ
多田 健一	部会等運営委員会担当運営委員（任期1年）	原子力機構
西山 潤	編集委員会担当運営委員（任期1年）	東京都市大学
多田 健一	HP 担当幹事（任期1年）	原子力機構
方野 量太	HP 担当幹事（任期1年）	原子力機構
上山 洋平	財務小委員会担当幹事（任期1年）	三菱重工
藤田 達也	財務小委員会担当幹事（任期2年）	北海道大学
竹澤 宏樹	編集小委員会担当幹事（任期1年）	長岡科学技術大学
桑垣 一紀	編集小委員会担当幹事（任期2年）	原子力機構
長野 浩明	セミナー小委員会担当幹事（任期1年）	原子燃料工業
竹田 敏	セミナー小委員会担当幹事（任期1年）	大阪大学
郡司 智	セミナー小委員会担当幹事（任期2年）	原子力機構
荒木 祥平	セミナー小委員会担当幹事（任期2年）	原子力機構
近藤 諒一	学術交流小委員会担当幹事（任期1年）	原子力機構
荒木 颯太	学術交流小委員会担当幹事（任期2年）	日立製作所
Fan Jun-Shuang	学生・若手小委員会担当幹事（任期1年）	北海道大学
大島 吉貴	学生・若手小委員会担当幹事（任期2年）	原子力エンジニアリング
牛尾 直史	部会選出原子力学会代議員（任期1年）	原子燃料工業
須山 賢也	部会選出原子力学会代議員（任期1年）	原子力機構

2025 年秋の大会部会企画セッション検討状況

学术交流小委員会担当幹事  
近藤諒一，小玉泰寛

日本原子力学会 第 62 回炉物理部会全体会議  
2025 年 3 月 13 日

2025 年秋の大会における企画セッションのテーマ案として以下を検討している。

企画セッションタイトル（案）

「STACY 更新炉の最前線と今後の展望」

セッション内容（案）

定常臨界実験装置 STACY 更新炉が 2024 年 4 月に初臨界を達成し、既に STACY を活用した研究発表や人材育成に向けた取り組みが実施されている。本セッションでは、これらの状況を踏まえつつ、STACY の現状と今後の展望を炉物理部会で共有し、STACY のさらなる活用に向けた議論を行う。

予定している講演の概要

発表内容は以下の 3 つのトピックに関する発表を予定している。詳細は調整中である。

- ① STACY の概要
- ② 人材育成における STACY の活用
- ③ STACY に関連する研究紹介  
(講演者 3 名 + ディスカッションを予定)

2025年3月

2025年3月13日炉物理部会全体会議審議・確認

## 炉物理部会メーリングリストの利用ルール

### 1. 目的

現在炉物理部会のコミュニケーションツールとしてメーリングリストが作成・利用されている。このメーリングリストを部会員がより気軽に利用できるようにするため、メーリングリスト利用に係るルールを明確化し、炉物理部会内のコミュニケーション活性化に資する。

### 2. 適用範囲

本ルールは炉物理部会メーリングリストのうち、部会員全員が利用できる「AESJ-RPDmail@ml.jaea.go.jp」に適用する。

### 3. 利用可能な内容

#### ① 情報発信・共有

炉物理に係る国内外の会議や刊行物等、炉物理部会員にとって有益となり得る情報の発信・共有を目的とするもの。

#### ② 質問・相談

炉物理研究に係る活動全般において、部会員に幅広く意見やコメント、アドバイスを求めたい質問事項や相談事項。

#### ③ 募集

炉物理研究に係る活動全般において、部会員から幅広く参加募集を求めたい事項（例：研究会への参加募集、共同研究や協業活動への参画募集等）。

#### ④ その他

①～③に該当しないが、部会3役への事前相談を経て、メーリングリスト利用が効果的であると判断された事項。

### 4. その他

以下のような内容でのメーリングリスト利用が確認された際は、炉物理部会長より当該メールを発信した部会員に対して注意を行う。また、複数回の注意喚起でも改善がなされない場合は、部会運営小委員会による審議を経た後、当該部会員をメーリングリスト登録から抹消する。

- ・ 個人や特定組織・企業の活動を援助するような内容（企業広報活動や採用活動に類するものを含む）
- ・ 誹謗中傷
- ・ 政治活動
- ・ 炉物理部会の品位を著しく傷つける内容



## 炉物理部会 部会賞表彰細則

令和 7 年 3 月 7 日 炉物理部会運営小委員会決定

## (目的)

第 1 条 本細則は「炉物理部会規約」第 1 条、第 3 条ならびに「部会・連絡会・支部表彰制度規程」(0110) 第 1 条に基づき、炉物理部会部会賞（以下、「部会賞」という）について定めることを目的とする。

## (趣旨)

第 2 条 原子炉物理学分野の若手の研究者・技術者の奨励を目的として、本分野において優れた活動をおこなっている若手研究者・技術者に対し、部会賞奨励賞を贈呈し、優れた口頭発表を行った若手研究者・技術者に対し部会賞優秀講演賞を贈呈する。また、原子炉物理学分野の発展に著しい貢献・功績が認められる活動をおこなっている研究者・技術者・組織施設に対し、部会賞貢献賞を贈呈する。

## (受賞資格)

第 3 条 部会賞の受賞資格は以下のとおりとする。

- 2 奨励賞および優秀講演賞については、当該年度の 4 月 1 日時点で満 35 歳以下であること。貢献賞については、年齢制限を設けない。
- 3 炉物理部会員または学生部会員であること。

## (受賞の判定基準)

第 4 条 受賞の判定基準は以下のとおりとする。

- 2 奨励賞については、原子炉物理学分野の研究・技術開発等において積極的かつ優れた活動をおこなっていること、かつ研究・技術開発等の活動の成果を、学術雑誌、国際会議、または日本原子力学会「春の年会」・「秋の大会」等で発表していること。ただし今後の更なる発展が期待できるものであれば完成度は問わない。受賞者は、毎年 3 名以内とする。
- 3 貢献賞については、原子炉物理学分野の発展に対する貢献・功績が認められること。研究者・技術者への授賞については受賞者の人数制限は設けない。組織・施設への授賞については構成員の人数制限は設けない。
- 4 優秀講演賞については、「春の年会」および「秋の大会」での口頭発表を対象とし、各 3 名程度を目安とする。
- 5 奨励賞、貢献賞ともに、該当者がいない場合は受賞者なしとする。

## (応募)

第 5 条 部会賞の公募は、炉物理部会ホームページ上でおこなう。

- 2 部会賞奨励賞の応募は自薦または他薦とし、所定の用紙にて部会長宛提出する。
- 3 部会賞貢献賞の応募は、原則として他薦とし、その貢献・功績に対し2つ以上の所属機関から計4名以上の部会員の推薦者があることとし、所定の用紙にて部会長宛提出する。
- 4 部会賞優秀講演賞の応募は、自薦または他薦とし、各行事開催前に所定用紙にて部会長宛提出する。

(選考・表彰手順・表彰時期)

- 第6条 奨励賞および貢献賞は、選考小委員会を部会長、副部会長、庶務幹事および部会長の指名するその他の運営委員からなる6名で構成する。ただし、利害関係者は選考小委員会の構成員になれない。優秀講演賞は、聴講者による投票によって決定する。
- 2 選考小委員会は応募のあった者の中から候補者を選定する。
  - 3 部会長は、運営小委員会の承認を得て、候補者の受賞を決定する。
  - 4 受賞者の表彰は、部会全体会議においておこない、奨励賞および貢献賞は表彰状および副賞を、優秀講演賞は表彰状を贈呈する。
  - 5 部会賞推薦書の様式、公募時期、表彰状および副賞等の詳細については運営小委員会において定める。

(選考結果報告)

- 第7条 表彰決定後、選考過程および選考結果を理事会へ報告する。

(改定)

- 第8条 本細則の改定は、炉物理部会運営小委員会が決定し、炉物理部会全体会議、部会等運営委員会ならびに理事会に報告するものとする。

#### 附則

- 1 平成24年3月21日 第36回炉物理部会全体会議制定、同日施行
- 2 改定履歴
  - ① 平成18年9月28日 「部会表彰内規」として制定
  - ② 平成24年3月21日 学会管理の内規に変更。第36回炉物理部会全体会議制定
  - ③ 平成27年9月10日 第43回炉物理部会全体会議承認、平成27年12月14日 第2回部会等運営委員会報告、平成28年1月26日 第6回理事会報告
  - ④ 平成28年3月27日 「炉物理部会部会賞表彰細則」に変更 炉物理部会運営小委員会承認、平成28年3月27日 第44回炉物理部会全体会議報告、平成28年6月16日 部会等運営委員会報告、平成28年7月28日 第2回理事会報告
  - ⑤ 平成28年8月1日 炉物理部会運営小委員会決定、平成28年9月8日 第45回炉物理部会全体会議報告、平成29年3月15日 部会等運営委員会メール報告、平成29年3月21日 第7回理事会報告
  - ⑥ 平成30年3月14日 炉物理部会運営小委員会決定、平成30年3月27日 第48回炉物理部会全体会議報告、平成30年4月17日 部会等運営委員会メール報告、平成30年5

月 29 日 第 8 回理事会報告

⑦ 令和 7 年 3 月 7 日 炉物理部会運営小委員会決定、令和 7 年 3 月 13 日 第 62 回炉物理部会全体会議報告、令和 7 年 4 月 00 日部会等運営委員会メール報告、令和 7 年 0 月 00 日 第 0 回理事会報告

附則

- 1 平成 27 年 9 月 10 日承認の内規は、炉物理部会全体会議承認の日から施行する。
- 2 平成 28 年 7 月 28 日承認の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。
- 3 平成 28 年 8 月 1 日決定の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。
- 4 平成 30 年 3 月 14 日決定の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。
- 5 令和 7 年 3 月 7 日決定の細則は、炉物理部会運営小委員会承認の日から施行する。

## 2025年度炉物理夏期セミナーの開催について

## 1. 開催要領

- 日程：2025/8/28（木）～8/29（金）
- 会場：大阪大学中之島センター
- 宿泊先：参加者各自で確保
- 懇親会：有志で実施予定（別途連絡）
- 参加費：正会員 8,000 円（不課税），学生会員 2,000 円（不課税）程度の見直し  
\* 50 名程度（内学生が半数）の参加を想定

## 2. テーマと講義内容、スケジュール

テーマ：「燃料設計と炉物理」

現在、様々な新型炉・新型燃料の開発が行われているが、これらの開発には炉物理技術者の貢献が欠かせない。そこで、今後も進められるであろう新型炉・新型燃料の開発に対して炉物理が果たす役割の理解を促進するため、今回のセミナーでは燃料設計と炉物理の関係に着目した講義と演習を実施する。

スケジュール	講義タイトル（仮）	講師	
8/28 （木）	12:30～12:40	開会挨拶・事務連絡	
	12:40～12:50	0. オープニングセッション（セミナー趣旨説明）	
	12:50～13:50	1. 燃料の安全設計の考え方	MHI 坪田氏
	14:00～15:20	2. PWRにおける燃料の安全設計と炉物理の関係	四電 西岡氏
	15:30～16:50	3. BWRにおける燃料の安全設計と炉物理の関係	GNF-J 土田氏
	17:00～18:00	若手研究会（ポスター発表）	
	18:00～	写真撮影	
19:00～	懇親会		
8/29 （金）	8:45～10:15	4. 一点炉モデルによる燃料仕様策定①(座学)	スタズビック・ジャパン 山崎氏
	10:25～11:25	4. 一点炉モデルによる燃料仕様策定②(ツール作成)	スタズビック・ジャパン 山崎氏 NFI 長野, 山本
	11:25～12:30	昼食休憩	
	12:30～15:00	4. 一点炉モデルによる燃料仕様策定③(問題演習)	
	15:00～15:10	閉会挨拶	

- 「4.一点炉モデルによる燃料仕様策定」を対象に、炉物理教育用教材としての活用を想定したテキスト作成予定。（炉物理部会の役割検討 WG 活動報告の【現状活動深化】のアクションプランへの対応）
- 炉物理研究者だけでなく、燃料に関わる全てのエンジニアにとっても有意義なテーマ・講義内容を考えており、学生及び若手エンジニアの積極的な参加を期待。
- PCを演習で使用するため各自で PC（エクセル使用できる PC）を持参していただく予定。

## 3. 本内容についての問い合わせ先

セミナー小委員会担当幹事

長野 浩明（原子燃料工業）：[nagano@nfi.co.jp](mailto:nagano@nfi.co.jp)

竹田 敏（大阪大学）：[takeda@see.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:takeda@see.eng.osaka-u.ac.jp)

以上

## 炉物理の研究

第 78 号

2025 年 3 月 7 日公開

<b>巻頭言</b> -炉物理部会の役割をあらためて考える	牛尾 直史 (NFI)
<b>特集 1 歴代部会長から</b> -炉物理とのかかわり	中島 健 (京大)
<b>特集 2 STACY 運転再開記念</b> -定常臨界実験装置 STACY の更新改造と運転再開	曾野 浩樹 (JAEA)
<b>炉物理部会企画セッション報告</b> -2024 年秋の大会企画セッション「レガシーシステムの現状と課題」開催報告	小玉 泰寛 (NFI)
<b>第 56 回日本原子力学会賞受賞記念</b> -遮蔽実験を活用した革新炉核設計の信頼性向上の研究について	丸山 修平 (JAEA)
<b>第 18 回炉物理部会賞受賞記念</b> -原子炉を用いた医療用 RI 製造に関する研究 -不連続因子を用いた中性子輸送計算手法の高度化に関する研究 -軽水炉使用済燃料の特性把握に関する研究	佐々木 悠人 (JAEA) 大島 吉貴 (NEL) 佐藤 駿介 (電中研)
<b>第 55 回炉物理セミナー報告</b> -第 55 回炉物理夏期セミナー開催報告	遠藤 知弘、山本 章夫 (名大)
<b>国際会議参加報告</b> -2024 ANS Annual Conference に参加して	笠間 陸斗 (名大)
<b>研究室便り</b> -東京科学大学 小原研究室	小原 徹 (科学大)
<b>事務局便り</b> -編集後記	福田 航大 (JAEA)